

受験番号	氏名

令和2年度

神奈川県立中等教育学校入学者決定検査

# 適性検査Ⅰ

(45分)

——— 注 意 ———

- 1 「はじめ」の合図があるまで、この検査用紙を開いてはいけません。
- 2 問題は問4まであり、1ページから8ページに印刷されています。
- 3 問題をよく読んで、答えはすべて解答用紙の決められた欄に書きましょう。解答欄の外に書かれていることは採点しません。
- 4 字数の指定がある問題は、指定された字数や条件を守り、ていねいな文字で書きましょう。次の〔例〕のように、横書きで、最初のマスから書き始めます。段落をかえたり、マスの間をあけたりしないで書きます。文字や数字は1マスに1字ずつ書き、文の終わりには句点〔。〕を書きます。句読点〔。、〕やかっこなども1字に数え、1マスに1字ずつ書きます。

〔例〕

1	2	月	の	詩	の	テ	ー	マ	は	
,		「	冬	の	朝	」	だ	っ	た	。

- 5 「やめ」の合図があったら、途中でも書くのをやめ、筆記用具を机の上に置きましょう。

**問1**

たろうさんのクラスでは、横浜市にあるシルク博物館で見学した内容について、発表する準備をしています。次の【会話文】を読んで、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

**【会話文】**

先生 「シルク博物館を見学して、わかったことは何ですか。」

たろう 「わたしは、シルクとは絹のことで、着物やネクタイ、ハンカチを大きくしたようなスカーフなどに使われていることがわかりました。また、横浜ではスカーフの製造が明治時代から続く伝統産業であることもわかりました。」

かなこ 「わたしは、シルクの原料になる生糸の輸出が、横浜開港から長い間、日本の経済を支えていたということを初めて知りました。また、現在ではシルクを使ったいろいろな製品の開発がすすんでいるそうです。」

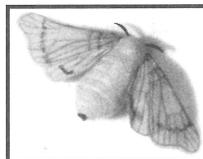
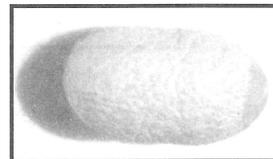
先生 「シルク博物館で見学した内容を、どのように発表しますか。」

たろう 「わたしたちは、【シルクとわたしたちの暮らし】と【横浜とシルクとの関わり】に書いたことをまとめて発表したいと思います。」

**【シルクとわたしたちの暮らし】**

- もともとシルクは、せんいの1つです。せんいとは、衣服や紙の原料になる細い糸状のものです。せんいには、カイコのみゆ、動物の毛や植物から作られた天然せんいと、石炭や石油などから人工的に作られた化学せんいがあります。
- 【写真1】のカイコは、【写真2】のカイコガの幼虫のことで、カイコガは、チョウやガの仲間です。カイコは、口から糸をはき、【写真3】のみゆを作り、その中で育ちます。みゆ<sup>注</sup>1個からおよそ1300mの糸がとれます。これを5本、7本と複数集めた状態のものを生糸といいます。生糸を加工してシルクを作り、着物やスカーフなどに使います。スカーフ1枚を作るには、110個のみゆが必要です。
- シルクは人の皮ふに近い成分でできているため、シルクで作った製品は、はだにやさしく、健康衣料ともいわれます。また、シルクをせんいとして衣料品に利用するほかに、新しい試みとしては、粉末などに加工してせっけんや口紅などのけしょう品の分野や、そうめんやあめなどの食品の分野をはじめ、いろいろな分野の製品に活用しています。そのほかにもさまざまな分野で研究開発が行われています。

注)1個：みゆは1粒<sup>りゅう</sup>、2粒<sup>りゅう</sup>…と数えますが、ここでは1個、2個…と数えます。

**【写真1】カイコ****【写真2】カイコガ****【写真3】みゆ**

## 〔横浜とシルクとの関わり〕

- 開港前の横浜は、小さな村でした。1859 (注1)安政6) 年の開港後、シルクの原料になる生糸をヨーロッパの国ぐにやアメリカ合衆国に輸出する港として、横浜は大いににぎわいました。
- 現在の神奈川県や、群馬県や長野県などで生産された生糸は、輸出のために横浜へ運ばれました。
- 横浜の開港当初、生糸の輸出相手国の1位はイギリスでしたが、その後はフランスが1位となり、さらに、1884 (明治17) 年にはアメリカ合衆国が1位となりました。また、1909 (明治42) 年、日本は世界一の生糸の輸出国になりました。
- 明治時代、注2)万国博覧会にシルクのハンカチを出品したことがきっかけで、横浜ではスカーフの製造がさかんになりました。昭和の時代には、世界の生産量の約50%を横浜で生産していたこともありました。現在も神奈川県の伝統産業の1つとして受けつがれています。

注1)安政：江戸時代の元号。

注2)万国博覧会：多くの国ぐにの産物や製品を人びとに見せるもよおし。

(1) 〔シルクとわたしたちの暮らし〕, 〔横浜とシルクとの関わり〕の内容として、あてはまるものを次の①～⑤の中からすべて選び、その番号を書きましょう。

- ① せんいとは細い糸状のもので、まゆから作られたせんいは化学せんいである。
- ② まゆ1個から1300mの糸がとれるとき、まゆ1100個でスカーフが10枚できる。
- ③ シルクは、人の皮ふに近い成分でできているため、はだにやさしい。
- ④ 輸出用の生糸は、神奈川県内で生産されて、群馬県や長野県に運ばれていた。
- ⑤ 生糸の輸出相手国の1位はイギリスだったが、その後はアメリカ合衆国が1位となり、1884 (明治17) 年にはフランスが1位となった。

(2) たろうさんは、〔シルクとわたしたちの暮らし〕, 〔横浜とシルクとの関わり〕の内容をもとに、次の〔まとめ〕を書いています。アにあてはまる内容を5字以上8字以内で書き、イにあてはまる内容を20字以上25字以内で書きましょう。

## 〔まとめ〕

カイコのまゆから作った生糸は、日本の代表的な輸出品でした。生糸を加工して作ったシルクは、着物などに使われています。

横浜では、シルクを使ったアがさかんで、世界の生産量の半分以上を製造していたこともあり、現在も伝統産業として受けつがれています。

また、シルクをせんいとして衣料品に利用すること以外に、新しい試みとしては、イが行われています。

**問2**

かなこさんとたろうさんは、家庭科の授業で朝食について学習しています。次の〔会話文〕を読んで、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

## 〔会話文〕

先生 「前回、朝食を食べると、体温が上がり、脳や体が活発にはたらくようになり、生活のリズムが整うことを学びました。また、〔食品のグループ分け〕の学習では、食品を組み合わせることで、栄養のバランスがよくなることも学びましたね。みなさんはどのような朝食を考えてきましたか。」

かなこ 「わたしは、ご飯、納豆、とうふと油あげのみそするという朝食を考えました。このままではアが足りないので、〔かながわの特産品〕にある、2月が注旬の時期のイを入れることにします。」

たろう 「わたしは、パン、ヨーグルト、牛乳、ゆで卵、果物の朝食を考えました。また、パンとヨーグルトについては、〔栄養成分表示〕にまとめました。」

先生 「食品の栄養成分表示については、エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウムなどが表示されていることを学習しましたね。」

かなこ 「ナトリウムとは、どんなものですか。」

先生 「ナトリウムは、体内の水分量をいつも適切な状態に調節するなどはたらきをする重要な栄養素です。わたしたちは、ナトリウムの多くを食塩から吸収しています。ただし、食塩のとり過ぎは体に良くありません。健康を保つために、食塩をとる量には目標とする数値が定められています。その数値は、これまでナトリウムの量で示されていました。表示をよりわかりやすくするために、これからは食塩相当量で表すことになっています。ただ、〔栄養成分表示〕のようにナトリウムの量で表示されていても、〔計算式〕で食塩相当量を求めることができます。」

注旬：魚や野菜などの、いちばん味のよいとき。

## 〔食品のグループ分け〕

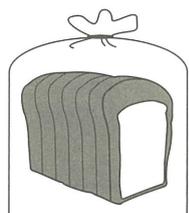
- おもにエネルギーのもとになる食品
  - ・炭水化物を多く含む食品（ご飯、パン、めん、いもなど）
  - ・脂質を多く含む食品（バター、マヨネーズ、油など）
- おもに体をつくるもとになる食品
  - ・たんぱく質を多く含む食品（魚、肉、卵、豆、豆製品など）
  - ・カルシウムを多く含む食品（牛乳、乳製品、海そうなど）
- おもに体の調子を整えるもとになる食品
  - ・ビタミンなどを多く含む食品（野菜、果物、きのこなど）

## 〔かながわの特産品〕食品と旬の時期

なす	：6月から11月	たまねぎ	：5月から7月
かぼちゃ	：6月から8月	だいこん	：11月から4月

（JAグループ神奈川「かながわ特産品カレンダー」より作成）

[栄養成分表示]



パン1袋<sup>ふくろ</sup>

パンの栄養成分表示 (100gあたり)	
エネルギー	262 kcal
たんぱく質	9.1 g
脂質	5.3 g
炭水化物	44.4 g
ナトリウム	480 mg



ヨーグルト1個

ヨーグルトの栄養成分表示 (1個あたり)	
エネルギー	64 kcal
たんぱく質	2.5 g
脂質	1.5 g
炭水化物	10.2 g
ナトリウム	33 mg

- ・エネルギーの単位 kcal は、キロカロリーと読みます。
- ・ $1\text{ mg} = \frac{1}{1000}\text{ g}$  です。
- ・パンは1袋に6枚入っていて、その6枚をあわせた重さは400gです。ここでは、袋<sup>ふくろ</sup>の重さは考えないものとします。

[計算式]

$$\text{食塩相当量} = \text{ナトリウムの量} \times 2.54$$

- ・それぞれの量の単位は、gとします。

(1) [会話文] の  と  に入る内容として、あてはまるものを  は①～③の中から、  は④～⑦の中からそれぞれ1つ選び、その番号を書きましょう。

- ア
- ① おもにエネルギーのもとになる食品
  - ② おもに体をつくるもとになる食品
  - ③ おもに体の調子を整えるもとになる食品

- イ
- ④ なす
  - ⑤ たまねぎ
  - ⑥ かぼちゃ
  - ⑦ だいこん

(2) [栄養成分表示] のパン1枚とヨーグルト1個をあわせた食塩相当量は何gか、書きましょう。ただし、答えは、小数第4位を四捨五入して、小数第3位まで書きましょう。

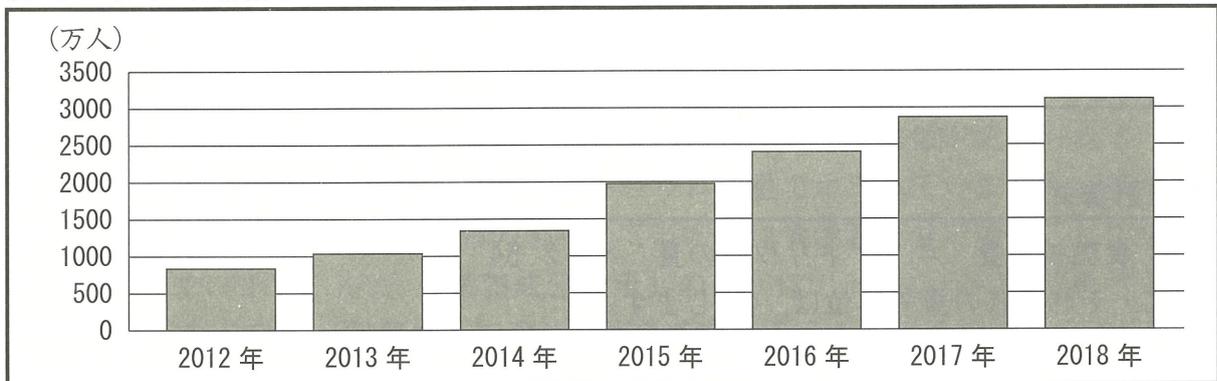
問3

たろうさんとかなこさんは、学級新聞の記事を書くために、日本を訪れた外国人旅行者について調べています。次の〔会話文〕を読んで、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

〔会話文〕

先生 「外国人旅行者について、どんなことを調べましたか。」  
 たろう 「わたしは、外国人旅行者の数の変化を調べました。〔グラフ〕のように、ここ数年で、外国人旅行者が増えていることがわかります。」  
 かなこ 「たしかに、2013年に1000万人を上回り、2018年には2013年の3倍に増加していますね。」  
 先生 「かなこさんは、何を調べましたか。」  
 かなこ 「わたしは、どの国や地域からの旅行者が多いのか、その割合を調べて、〔表〕にしてみました。」  
 たろう 「では、調べたことをまとめて、学級新聞用の〔記事〕を書きましょう。」

〔グラフ〕 日本を訪れた外国人旅行者の数



(日本政府観光局 (JNTO) ホームページより作成)

〔表〕 日本を訪れた外国人旅行者の国や地域の割合 (2013年と2018年)

2013年	国または地域名	割合	2018年	国または地域名	割合
1位	韓国	23.7%	1位	中国	26.9%
2位	台湾	21.3%	2位	韓国	24.2%
3位	中国	12.7%	3位	台湾	15.3%
4位	アメリカ合衆国	7.7%	4位	香港	7.1%
5位	香港	7.2%	5位	アメリカ合衆国	4.9%
	その他	27.4%		その他	21.6%

(日本政府観光局 (JNTO) ホームページより作成)

〔記事〕

日本政府観光局の調査によると、日本を訪れた外国人旅行者の数は、2013年に年間1000万人を上回りました。その後も増え続けて、2016年には年間2000万人、2018年には年間3000万人を突破しました。

2013年と2018年の外国人旅行者の国や地域の割合を比べてみると、上位になっている国や地域は変わっていません。中国、<sup>かんこく</sup>韓国、<sup>たいわん</sup>台湾、<sup>ほんこん</sup>香港といった日本から近い国や地域からの旅行者が多く、2018年では、それらの国や地域の割合を合計すると、全体のおよそ $\square$ になります。また、ア中国からの旅行者の数が増え、2018年はすべての国や地域の中で最も多くなりました。その一方で、2018年のアメリカ合衆国からの旅行者の数は、2013年と比べ、イ減少しています。

(1) 〔記事〕の $\square$ に入る割合として最もあてはまるものを次の①～⑤の中から1つ選び、その番号を書きましょう。

- ① 3分の1      ② 2分の1      ③ 3分の2      ④ 4分の3      ⑤ 5分の4

(2) 〔記事〕の下線部ア、イについて、次のア、イの各問いに答えましょう。

ただし、日本を訪れた外国人旅行者の数は、2013年は1000万人、2018年は3000万人であるものとします。

ア 下線部ア「中国からの旅行者の数」について、2018年は2013年のおよそ何倍に増えたか、最もあてはまるものを次の①～⑥の中から1つ選び、その番号を書きましょう。

- ① 1.5倍      ② 2倍      ③ 3倍      ④ 4倍      ⑤ 5倍      ⑥ 6倍

イ 下線部イ「減少しています」は、まちがっています。その理由について、アメリカ合衆国と旅行者の数という2つの言葉を使い、文で具体的に説明しましょう。式を入れてもかまいませんが、解答欄のわくの中にわかりやすく書きましょう。

**問4** かなこさんは厚紙にかいた展開図から、2つのさいころを作りました。次の【会話文1】を読んで、あとの(1)、(2)の各問いに答えましょう。

【会話文1】

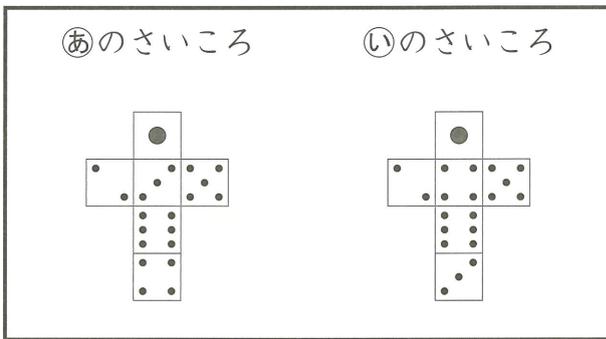
かなこ 「【図1】の2つの展開図をかくときに、どちらも『向かい合う面の目の数の和が7になる』という、さいころの目の関係に気がつけたので、同じさいころができると思ったのですが、組み立ててみると㊸と㊹では、異なるさいころができました。」

たろう 「どこにちがいがあるのですか。」

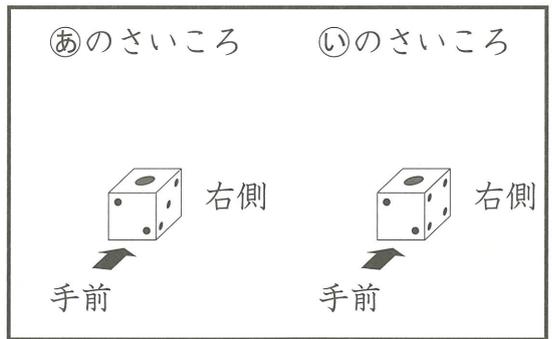
かなこ 「【図2】のように、を上にして、が手前になるように置いたとき、右側の面の目は、㊸では、㊹ではです。」

たろう 「たしかにそうですね。では、ほかにも展開図をかいてみて、㊸、㊹のどちらのさいころになるのか調べてみましょう。」

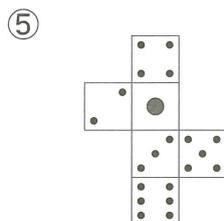
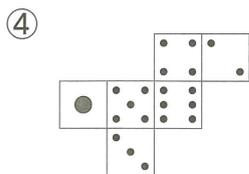
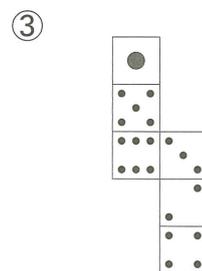
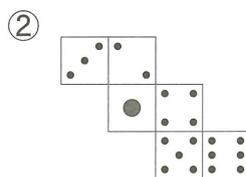
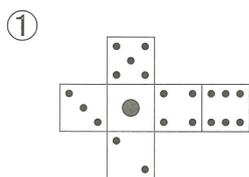
【図1】さいころの展開図



【図2】さいころの見取図



(1) 次の①～⑤の展開図を組み立てたとき、さいころの目の配置が、【図2】の㊸のさいころと同じになるものはどれでしょう。あてはまるものを①～⑤の中からすべて選び、その番号を書きましょう。ただし、と、と、との目の向きが異なっても同じ目として考えます。

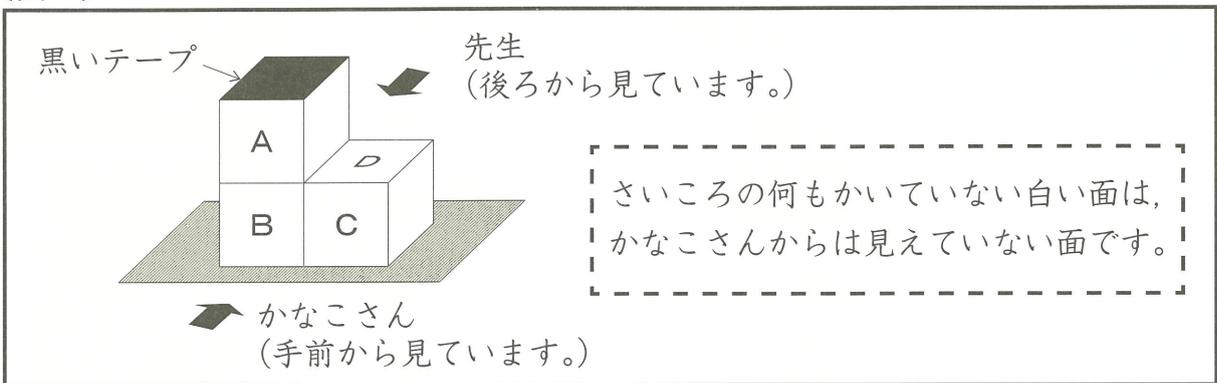


(2) 先生は、〔図2〕の㊸と同じさいころ3個を、次の〔条件〕に従って〔図3〕のように置きました。このとき、たろうさんは〔条件〕を読みましたが、さいころは見えていません。あとの〔会話文2〕を読んで、ア、イの各問いに答えましょう。

〔条件〕

- 3個のさいころは、下に左右2個くっつけて置き、その片方のさいころの上に残りの1個を置きます。上に置くさいころの上向きの面には黒いテープをはり、面が見えないようにします。
- さいころどうしがくっつく面は、目の数の和が7になるように置きます。
- かなこさんは手前から、先生は後ろから置いてあるさいころを見ます。

〔図3〕



〔会話文2〕

先生 「かなこさんからは、どこの面が見えますか。」  
 かなこ 「手前にあるA、B、Cの面と、黒いテープの面とDの面が見えます。」  
 先生 「黒いテープの面とDの面は、後ろからも見えます。Dの目の数は3ですね。では、A、B、Cの3つの面の目は、どんな数になっていますか。」  
 かなこ 「A、B、Cのうち、2つは同じ数で、A、B、Cの目の数の和は9です。」  
 たろう 「ということは、後ろにある3つの面の目も、2つは同じ数になっているはずですね。先生、その3つの目の数の和は、ですか。」  
 先生 「そのとおりです。さいころの目の関係がよくわかっていますね。」  
 かなこ 「ところで、黒いテープの面の目の数が何か、わかりますか。」  
 たろう 「これまでの会話と〔条件〕、さらにさいころの目の関係を手がかりにすれば、黒いテープの面の目として考えられる数を、いくつかにしぼることができそうです。」

ア 〔会話文2〕のにあてはまる数を、〔条件〕、〔会話文2〕をもとに考え、数字で書きましょう。

イ 〔図3〕の黒いテープの面の目として考えられる数を、〔条件〕、〔会話文2〕をもとに考え、1～6のうち、あてはまるものすべてを数字で書きましょう。

※問題は、これで終わりです。

このページには、問題は印刷されていません。

このページには、問題は印刷されていません。

